

## 数学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	12 (12)		10 (4)		— (1)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	40 (18)			52 (40)			— (—)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (—)	1 (—)	1 (—)	1 (1)	7 (3)			
	退学者	— (1)	1 (1)	— (—)	— (—)	2 (2)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・ ( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 数学研究科の活動

本研究科では5年一貫制の特徴を生かして大学院生の教育と研究指導を行い、高度な数学的知識を習得させて、それらをいろいろな分野に応用できる柔軟な思考力を持ち、社会において指導的役割を果たせる人材を養成するように努力した。また、理系8研究科の改組、再編によって、数理物質科学研究科が設立し、その中に数学専攻が発足して新たに数理科学分野も開設し、高度専門職業人養成のための応用部門の充実を図ったのに伴い、この改革によって成果があがるように努めた。さらに新研究科の新専攻として物質創成先端科学専攻が設置され、数学研究科からも3名の教官が参加したことに伴い、数学専攻と協力して教育研究に従事した。

### 2 教員の教育業績評価の状況

課程修了に伴って博士号の学位を取得することは、指導教官にとっても重要な教育業績となる。平成15年度は10名の修了者を出すことができた。この他に、学位論文を提出する学力を十分有しながら、就職等の事情で修了を先送りする者もいた。これらの状況については、個々の学生の学問的才能及び努力にも大きく依存するが、対外的な事情も大きく関与するので、各教員の教育業績評価に当たっては、長期的な尺度で判断する方針である。学生の日常生活の指導については、研究科長が中心となって、学生の種々の相談に随時応じるとともに、きめ細やかなオリエンテーション、学生と教官との懇談会、個人面談、掲示物、電子メール等を通じて、研究科内の教員及び学生間で自由に意見交換ができるような環境づくりを行っている。

### 3 自己評価と課題

本研究科への進学が、より魅力あるものとするための方法について、本研究科のホームページを通じて情報開示を進め、社会に開かれた大学院を目指す努力を行った。在学生の多くは、それぞれの指導教官と日頃の講義及びセミナーを通じて密接な関係を保ち、順調な学生生活を送っている。しかしながら、59名の在学生の中には、きめ細やかな指導を必要とするものが若干名いる。そのような状況において、今年度、課程修了による博士号取得者10名を送り出すことができたことは評価できると思われる。今後の最重要課題として、学生が短期間で優れた成績をあげるように指導すると同時に、社会的ニーズに応じて、数学の様々な分野への応用を視野に入れた幅広い研究者、教育者、高度専門職業人を養成するという高い目標を掲げて、研究科としての独自の方法を策定することが必要である。

なお、合計59名にのぼる学生用の部屋の不足及びそれに伴う学習環境、情報環境の不備が解消されておらず、自習室及びセミナー室を増やす等の具体的な対応策が引き続き求められている。